

令和4年度 京都市歴史資料館 評議委員会議

日 時 令和5年3月14日（火） 午後3時 開会

会 場 職員会館かもがわ 2F 大会議室

議 題 令和4年度事業報告説明

令和5年度事業計画（案）説明

歴史資料館運営予算について

京都市歴史資料館 評議委員会議 配布資料

- 資料1 京都市歴史資料館評議委員名簿
- 資料2 座席表
- 資料3 京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱
- 資料4 令和4年度事業報告
- 参考資料 別紙1 概要
- 参考資料 別紙2 利用状況
- 参考資料 別紙3 資料の収集状況
- 資料5 令和5年度事業計画（案）
- 資料6 京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表
- 資料7 令和3年度京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

京都市歴史資料館評議委員名簿

令和4年4月1日現在

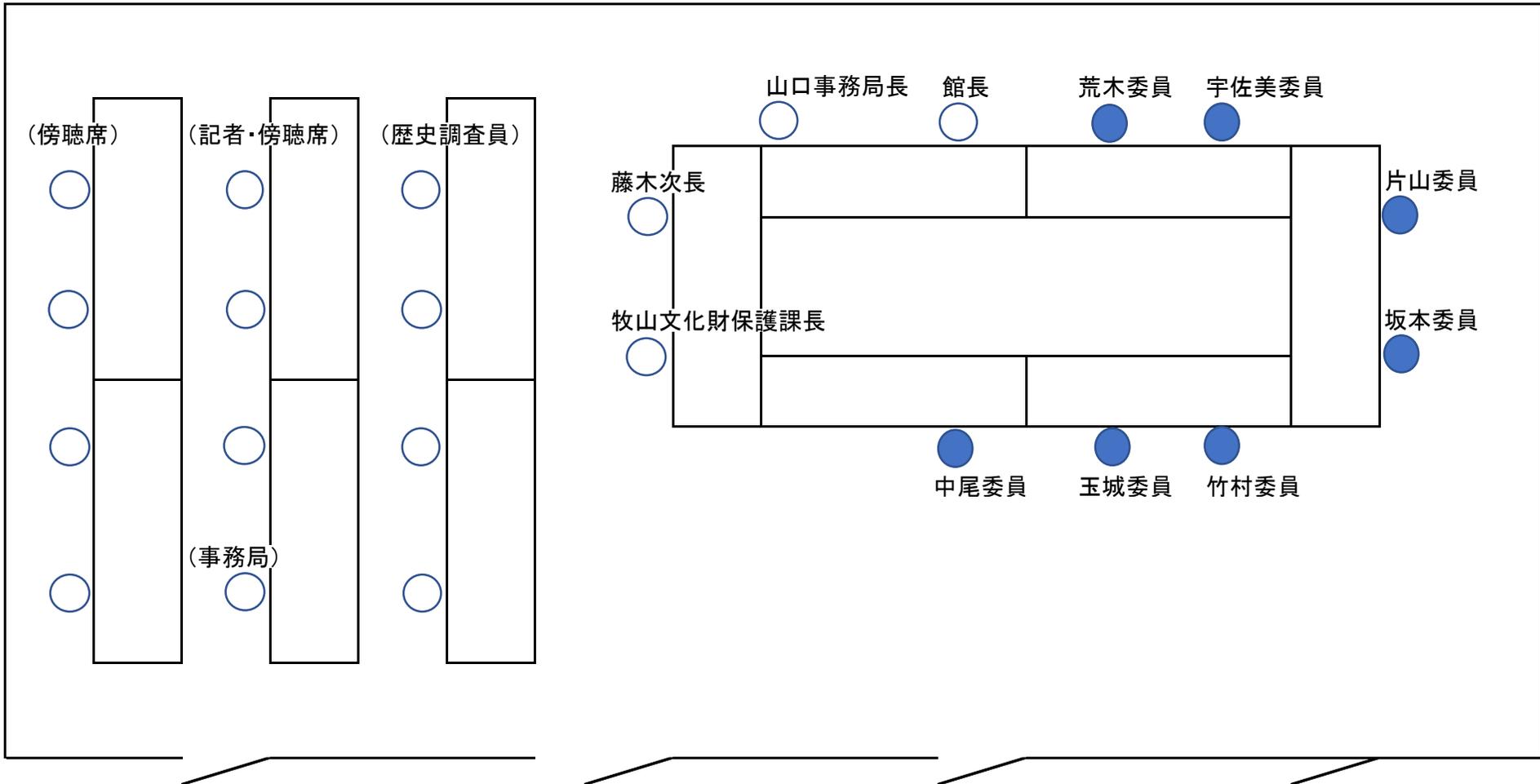
氏 名	役 職 等	専 門 分 野
荒木かおり	川面美術研究所所長	彩色復元
宇佐美英機	滋賀大学 名誉教授	日本近世史・経営史
片山真理子	東京芸術大学美術学部附属古美術研究施設非常勤講師	美術史
坂本 博司	宇治市歴史資料館 前館長	地域史・食文化史
竹村 佳子	元学校歴史博物館 学芸員	生涯学習・社会教育
玉城 玲子	向日市文化資料館 館長	地域史・中世史
中尾 亮弘	市民公募	

(敬称略, 50音順)

京都市歴史資料館評議委員会議 座席表

日時: 令和5年3月14日(火) 午後3時~4時30分

場所: 職員会館かもがわ 2階 大会議室



京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

(平成25年11月15日決定)

(令和3年3月29日改正)

(趣旨)

第1条 京都市歴史資料館の展示，講座，調査研究その他の業務について，専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として，京都市歴史資料館評議委員会議（以下「会議」という。）を開催する。

(委員)

第2条 歴史資料館長（以下「館長」という。）は，学識経験のある者その他館長が適当と認める者のうちから委員を依頼し，意見を求めるものとする。

2 前項の規定により依頼する委員の人数は，7人以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は，2年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

2 委員は，再任されることができる。

(会議の招集)

第4条 会議は，館長が招集する。

(庶務)

第5条 委員に関する庶務は，歴史資料館で行う。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか，会議の開催に関し必要な事項は，館長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は，決定の日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成27年3月24日までの間、会議の委員の人数は、第2条第2項の規定にかかわらず、10人とする。
- 3 この要綱の施行の際現に京都市歴史資料館評議員規則に基づく京都市歴史資料館評議員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）に会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における京都市歴史資料館評議員としての任期の残任期間とする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、決定の日から施行する。

令和4年度事業報告

1 展示

(1) 京都市歴史資料館

種別	テーマ	内容	期間	入館者数等	一日平均・経費
企画展	「村の“さむらい”たち -刀を差した農民もいた-」	明治時代までの京都は、市街地の四周を農村が囲んでいました。その村々のなかには、「郷土」と呼ばれる人々が暮らしていたところもありました。百姓でありながら、武士としての側面ももっていた「郷土」のようすを、主に古文書によって紹介しました。	2.18～5.15 (71日間) ギャラリートーク 4.20 ナイトミュージアム 4.20 ギャラリートーク 5.12	・目標入場者数 6,300人 (R3 3,150人) (R4 3,240人) (1日平均約90人) → 3,831人 (R3 1,273人) (R4 2,558人) 21人 25人 22人	54人 107,800円
特別展	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念 「歴史資料館がある場所- 御所の東の今と昔-」	近年「御所東」と称されることの多い歴史資料館の周辺地域は、平安京の時代から明治時代に至るまで、幾度となく京都の歴史上でも注目を集める場所でした。開館40周年を記念し、資料館を含む「御所東」の歴史について、館蔵史料や各遺跡からの出土遺物をもとに、平安時代から現代までを紹介しました。	6.4～10.23 (116日間) 前期:6.4～8.14 (61日間) 後期:8.20～10.23 (55日間) ギャラリートーク 6.26 ギャラリートーク 7.20 ナイトミュージアム 7.20 ギャラリートーク 8.24 ギャラリートーク 9.28 ナイトミュージアム 9.28 ギャラリートーク 10.8	・目標入場者数 11,600人 (1日平均約100人) → 9,741人 (前期) 4,851人 (後期) 4,890人 40人 19人 23人 30人 17人 24人 21人 【目録販売数】 421部	84人 182,765円
特別展	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念 「京歴展！」	日本史はもちろんのこと、京都の歴史に関して多大な業績を残された林屋辰三郎氏の足跡を、燈心文庫をはじめとする寄贈資料を通じてたどりながら、京都の市史編さん事業や歴史資料館の歩みについても振り返りました。	10.29～4.23 (136日間) 前期:10.29～1.22 (65日間) 後期:1.28～4.23 (71日間) ギャラリートーク 11.24 ギャラリートーク 12.7 ナイトミュージアム 12.7 ギャラリートーク 1.7 ギャラリートーク 2.2 ギャラリートーク 2.26 ナイトミュージアム 3.8 ギャラリートーク 3.8	・目標入場者数 13,600人 (1日平均約100人) (前期) 4,266人 (後期) — 12人 5人 7人 25人 13人 — — — 【目録販売数】 223部 (1/31現在)	(前期) 66人 231,000円

第2 展示室 企画展	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念 夏休み子ども向け展示コーナー「もっとわかる！五山送り火のいまむかし～うけつがれる京の伝統～」	京都女子大学大学院生が企画・展示した子ども向けのパネル展。自由研究に使えるオリジナル学習シートやクイズコーナーを設置。	8.3～8.14 (10日間) 随時、展示解説を実施	—	—
第2 展示室 企画展	「岩倉具視の見た世界」	当館では岩倉具視関係資料を所蔵しています。岩倉が特命全權大使をつとめた使節団が150年前の明治5年に訪問したアメリカ・イギリスの各地を『米欧回覧実記』の銅版画で振り返りました。	8.20～12.27 (109日間)	—	—
第2 展示室 企画展	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念 鴨沂高校京都文化コース連携展示 150周年記念パネル展示 「鴨沂高校のある場所—御所の東の120年—」	鴨沂高校の創立150周年（前身の新英学校の創立から）を記念してパネル展示を実施しました。会期中は、在校生による展示解説を実施しました。	1.6～2.1 (19日間) 展示解説 1.13 1.20 各4回	—	—
第2 展示室 企画展	「上野伊三郎家文書の建築図面」	「上野伊三郎家文書」資料について、(公財)ポーラ美術館振興財団の調査研究助成を受け、目録整備を中心に調査・研究を進めました。その成果報告としてパネル展示を実施しております。	2.2～4.23 (68日間)	—	—

(参考)・会期中、原則毎月1回ギャラリートーク(30分間程度)を行っている。

その内の1回は、20時までのナイトミュージアム(夜間開館)の時間帯に実施している。

2 講座等

(1) 京都市歴史資料館

講座名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師	受講者数・経費
歴史講座	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念「井上満郎館長の夏夜のトークライブ」 ○参加費：1,000円	8.25	歴史資料館 展示室	井上館長	19人 5,280円 【収入】 19,000円
	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念「井上満郎館長 春の夜のトークライブ」 ○参加費：1,000円	3.16	歴史資料館 展示室	井上館長	—
シンポジウム	文化庁移転記念・歴史資料館開館40周年記念「京都御所と公家の住む町」 ○記念講演「王朝文化の源泉」 講師：村井康彦(前歴史資料館館長、国際日本文化研究センター名誉教授) ○パネルディスカッション テーマ「京都御所と公家が住む町」 パネリスト： 冷泉貴実子((公財)冷泉家時雨亭文庫常務理事) 山本雅和(考古資料館長、京都産業大)	9.11	上京区役所	左記	42人 184,659円

	学客員教授) 井上満郎(歴史資料館長, 京都産業大 学名誉教授) コーディネーター 吉住 ○参加費: 無料				
ワークショップ	文化庁移転記念・歴史資料館開館 40 周年記 念 子ども向けワークショップ「自分の花押 を作ろう!」 ○参加費: 500 円	2. 11	歴史資料館 展示室	野地	44 人 17, 601 円 【収入】 22, 000 円
歴史講座	文化庁移転記念・歴史資料館開館 40 周年記 念「京歴からはじまる京都のまなびー作家・ 天花寺さやかさんとの語らいー」 ○参加費: 無料	2, 17	京都アスニ ー	野地	150 人 経費なし
連続講座 「古文書を楽し く読もう!」	A組(初級編「古文書入門」) 13 時 B組(中級編「江戸時代のお触れと町のき まり」) 15 時	春期連続講座 5. 25~ 毎水 4 回	鴨沂会館	野地 松中	26 人 44 人 46, 750 円 【収入】 280, 000 円
	A組(初級編「古文書入門」) 13 時 30 分 B組(中級編「地下官人の文書を読む」 15 時 30 分	秋期連続講座 11. 16~ 毎水 4 回	職員会館 かもがわ	尾下 井上	29 人 44 人 68, 000 円 【収入】 292, 000 円
ギャラリートーク	「村の“さむらい”たち ー刀を差した農民もいたー」	4. 20 5. 12	歴史資料館	井上	21 人 22 人
	文化庁移転記念・歴史資料館開館 40 周年 記念「歴史資料館がある場所-御所の東の 今と昔-」	6. 26 7. 20 8. 24 9. 28 10. 8	歴史資料館	吉住	40 人 19 人 30 人 17 人 21 人
	文化庁移転記念・歴史資料館開館 40 周年 記念「京歴展!」	11. 24 12. 7 1. 7 2. 2 2. 26 3. 8	歴史資料館	野地	12 人 5 人 25 人 13 人 17 人 -

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講座名	テーマ・内容	期日	会場	講師	受講者数	
御所南小学校授業	元学区の歴史	6. 10	御所南小学校	松中	4クラス (リモート)	
重要文化財 京都府庁旧本館 旧議場土曜講座	「歴史資料館があ る場所-御所の東 の今と昔-」	6. 18	京都府庁旧本館	吉住	80 人	
京都府立鴨沂高等学校授業	「寺町通の歴史と 鴨沂高校がある場 所」	10. 6	鴨沂高等学校	井上	13 人	
京都府立京都 学・歴彩館との 連携	京都学ラウンジ・ミニ講座 (京都市共催)	京歴展!	12. 22	京都学・歴彩館	野地	70 人
アスニー京都学講座	京歴展!	1. 14	京都アスニー	野地	中止	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行いました。

(1) 収蔵品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する。」ですが、所蔵する館蔵品・寄託品の内容把握が、受入れが膨大となり十分とは言えない状況にあります。

そこで、収蔵品台帳・目録の整備を重点的に対応しました。

最終的には、目録を作成するなかで、明らかとなった貴重な資料は、市指定文化財の指定に繋げ、長く保存・活用される道筋を明らかにするとともに、目録の公開（HP等）を通じて、市民等の活用に資するよう目指します。更に、詳細な調査・研究を必要とする貴重な資料は、大学等と共同研究を行い、その成果を発表（HP等）・活用（出版物等）し、広く市民等の活用に還元する道筋を明らかにしていきます。目録・画像データのデジタル化により、検索を容易にし、インターネット等において収蔵品の魅力の発信に努めていきます。

令和4年度は、引き続き収蔵品台帳・目録（画像データも含む。）の整備を引き続き進めました。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

ア 学校法人インターナショナル学園寄贈資料の調査・研究

学校法人インターナショナル学園より寄贈を受けた、多くの寺社の建築図面等からなる「上野伊三郎家文書」資料について、公益財団法人ポーラ美術館振興財団の調査研究助成を受け（代表：井上幸治、助成金額：約2,000千円 ※個人助成、歴史資料館予算外）、目録整備を中心に調査・研究を進めました。

その成果報告として第2展示室において、パネル展示「上野伊三郎家文書の建築図面」を実施しております。

(2) 京都市内個人所有古文書調査事業の実施

京都市には、個人が所有する未調査の歴史資料が多数あり、散逸の危機に瀕している現状をふまえ、資料の散逸を防ぎ、資料の有効活用と将来にわたる資料の保存をはかることを目的として、令和元年度より4か年事業として、文化庁「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の国庫補助を受け、「熊谷(純)家文書」「下村(忠)家文書」を対象として、資料整理及び目録の作成、高精細デジタル撮影を実施しています。

最終年度となる令和4年度は、両文書のデジタル撮影及び詳細目録の作成を行い、調査報告書を作成・刊行します。

【秋元】

(3) 京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺・金蔵寺調査

8月20日、11月2日に現地での資料調査を行いました。

【秋元、野地】

(4) 文化庁の興聖寺一切経調査

歴史資料館からも調査に参加していますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中断しています。

【野地、井上】

(5) 国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

令和4年度から3ヵ年の予定で実施される国文学研究資料館の研究会に参加し、山本家典籍（京都市指定文化財）など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する共同研究に参加しました。

また、国文学研究資料館が、山本家典籍（京都市指定文化財）をデータベース化するため、画像データの作成を行っています（諸費用は国文学研究資料館が負担。）。

【松中】

(6) 大谷大学による今江家文書調査

所蔵者の了解の下、大谷大学へ今江家文書を貸し出し、京都市の指定に向けた調査を行いました。文書は大学博物館収蔵庫にて管理します。

また、市指定に先行して当館において資料の整理作業を行っております。

【松中、文化財保護課】

(7) 東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、「財団法人岩倉公旧跡保存会」から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料のデジタル撮影を行いました。

- ・令和3年9月29日、30日 来館の上打ち合わせ・調査
- ・令和4年3月 2日～ 1,200コマ撮影予定（光楽堂）

【松中】

(8) 八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、令和4年度分の修理を行いました。

令和5年度以降は、読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金により、10箇年で320点を修理する計画です。

【松中】

5 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、2023年に設立100周年を迎えることから、近代の祇園祭の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌などが作成されます（令和2年度から6年度の5ヵ年事業）。

このうち、山鉾町関連資料や八坂神社関連資料の調査に協力しています。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

6 凸版印刷「古文書解読スマホアプリ「ふみのはカメラ」」における実証実験への協力

凸版印刷(株)がAIを活用した古文書解読支援システム「ふみのはゼミ」を開発、そのアプリ版を開発するにあたり、実証実験の協力依頼が当館にありました。

当館歴史調査員に加え、文化財保護技師や大学院生等にも参加いただき、11月11日に実証実験を行いました。

【松中】

7 資料館外貸出

他の博物館や美術館での展覧会に、当館の館蔵及び寄託資料を貸し出し出陳する依頼があった場合、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行ないました。

【吉住、井上、尾下】

8 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用を希望される場合、特別利用や掲載許可の申請手続きや画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行いました。

—特別利用の申請—

- (1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。
- (2) (1) で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。
- (3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint 等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

- (4) 出版物に図版として写真を掲載する（電子書籍版も含む）。

歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、令和2年度まで使用目的にかかわらず、貸出申請のうえ無料で提供してきましたが、出版物等の商業目的については、利用者に一定の利益が見込まれることから、令和3年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき画像貸出に係る経費を負担願っています。

【吉住、井上、尾下】

9 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧を希望される場合、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行ないました。

- (1) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (2) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。
- (3) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【吉住、井上、尾下】

10 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査を行いました。

(参考)

指定件数 1,792 件（令和4年3月31日現在）

市参事会文書 156 件、編入市町村引継文書 573 件、総合企画局国際化推

進室文書 511 件、総合企画局総合政策室文書 286 件、元離宮二条城事務所文書 51 件、その他 215 件

【秋元】

11 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書等の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応しました（参考資料 別紙2参照）。

【歴史調査員】

12 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行いました。

【井上】

13 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施しました。

・期日 令和4年8月23～27日の5日間 京女・京都橘・同志社・大谷・立命館 計8人
【秋元】

14 収蔵環境の向上

収蔵庫の環境を適切に保つため、引き続き IPM メンテナンス等を行いました。

更に、地方独立行政法人京都市産業技術研究所と、文化財の保護や修復、適切な保存及び収蔵環境の実現等に関する連携協定を締結（令和3年5月28日）し、収蔵環境調査を定期的に行っています。

15 広報活動の強化

令和4年度も引き続き Facebook、Twitter を利用し、情報発信の充実・強化に努めました。

京都市歴史資料館の概要

京都市歴史資料館 (昭和57年10月 設立)	
事業内容	京都市域の古文書を中心とした歴史資料の収集・保存・調査・研究・公開
収集資料	<ul style="list-style-type: none"> ・一次資料 (古文書) : 約 189,000 点 ・写真複写 (古文書) : 約 2,135,700 コマ ※2年度～デジタル化 (目録) : 約 18,000 点 (写真) : 約 10,000 枚 ・マイクロフィルム (新聞) : 約 1,260,000 コマ ・歴史一般図書 : 約 25,500 冊 ・美術工芸品, 民俗資料 : 約 210 点
調査研究事業	<ul style="list-style-type: none"> ・史料叢書の出版 ・研究紀要の発行
公開事業	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展示, テーマ展示, 企画展示 ・DVD 映像 ・市民対象の各種講座 ・図書, 資料の閲覧 ・歴史相談 ・情報システム「フィールドミュージアム京都」発信
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都市政史」及び「叢書 京都の史料」編さん等を通して, 積極的に資料収集を行ってきたが, その中心となるのは文献資料である。 ・公文書館ではない。 ・調査・研究を積極的に行っている。
施設状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地上2階・地下1階 ・ 敷地面積 1,183 m² ・ 延床面積 2,016 m²

(令和5年1月31日現在)

歴史資料館の利用状況について

年度	年度合計			土日関係			閲覧件数			相談件数			
	入館者数	開館日数	1日当り	入館者数	開館日数	1日当り	件数	図書	古文書	件数	電話	来館	郵便
28	21,957	286	77	9,948	101	98	1,440	1021	419	799	427	353	19
29	20,096	285	71	8,764	99	89	1,200	871	329	710	392	303	15
30	18,730	283	66	8,028	96	84	1,201	893	308	623	338	277	8
元	26,339	280	94	10,373	94	110	1,178	775	403	568	272	282	14
2	18,897	252	75	7,305	87	84	748	481	267	501	307	173	21
3	26,786	229	117	11,871	79	150	605	426	260	396	263	121	12
3 (4~1)	23,018	183	125	10,372	63	164	541	344	197	366	244	110	12
4 (4~1)	16,905	219	77	6,784	82	82	695	388	307	320	172	139	9

【参考】前年度比 数値比較 … 4年度/3年度

- 入館者数 ⇒ 26.6 %減
- 土日入館者数 ⇒ 34.6 %減
- 閲覧件数 ⇒ 28.5 %増
- 相談件数 ⇒ 12.6 %減

歴史資料館ホームページアクセス数

年度	トップページ	1日当たり
28	53478	147
29	69,874	191
30	83,314	228
元	99,021	271
2	64,487	177
3	48,055	132
3 (4~1)	44,718	146
4 (4~1)	9,774	32

【参考】前年度比 数値比較…4年度/3年度
78.1 %減

※文化市民局全体で77.6%減

京都市情報館ホームページ作成支援システムアクセスカウント数

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
令和2年度は、4月7日より5月17日の間(32日間)、閉館。
令和3年度は、4月25日より5月31日の間(28日間)及び
8月20日より9月30日の間(37日間)、計65日間閉館

資料の収集状況について

1 館蔵資料の受入れ状況

(受入れ件数は、R4.3.31現在)

	30年度	元年度	2年度	3年度	総数
一次資料（古文書）	約1,400	約610	－ ※1	約2,500	約189,000点
写真複写（古文書） 2年度～デジタル化 ※2 目録 写真	－	－	約1,700 約9,000	16,300 1,000	約2,135,700コマ 約18,000点 約10,000枚
マイクロフィルム・ デジタルデータ（新聞）	約20,000	約20,000	約20,000	約20,000	約1,260,000コマ
図 書	約210	約210	約260	約260	約25,500冊
美術工芸品等	絵画，屏風，秤，枡，町旗，籠，消火器，つづら，祭具等 約210点				

※1 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、鑑定評価委員会が開催できなかったため、一次資料（古文書）等の受入れは無い。

※2 古文書等のデジタル化は、館所蔵のうち、重要資料やデジタルデータの活用が見込まれるものから重点的に実施している。

2 収蔵資料文化財指定の状況

	件数	点数	内 訳
重要文化財	5件	3,900点	兵庫北関入船納帳 1冊 福井家旧蔵京枡座関係資料 2,139点 八瀬童子関係資料 741点 岩倉具視関係資料 1,018点 古今和歌集 下 1冊
市指定・登録文化財	25件	13,201点	岩倉具視関係資料 109点 賀茂季鷹関係典籍類 1,268点 京都市参事会文書 158点 等

3 寄付受納物件（過去5年間）

年 度	品 名	数 量	寄 贈 者
平成28年度	古文書	約280点	大野 氏隆
	古文書・制札	約500点・3点	徳田 正彦
	衣装・制札	17点・2点	中村 勇
	古文書	1点	石塚 晶子

	和本・漆器	8点	五十嵐 高明
	古文書・書画	478点	山下 信子
	古文書	約40点	遠藤 慶子
平成29年度	古文書など	約60点	杉村 正臣
	古文書	約30,000点	田中 子朗
	古文書	11点	田村 昌巳
	絵図	2点	上田 壽一
	絵はがき	7点	雁瀬 一郎
	古文書	1点	倉内 仁
	古文書	7点	岩佐 敦子
	古文書・看板	1点・4点	西田 俊一
	古文書・木箱	44点・1箱	武内 一樹
	掛軸・短冊	66点	澤井 多年夫
平成30年度	古文書	1点	鹿谷 逸郎
	古文書	2点	中井 博一
	古文書	約50点	大嶋 正博
	古文書・書画・版本	40点	福田 叡子
	図面・書類など	約260点	間野 嘉津子
	鉢巻・地図	5点	藤野 正弘
	和菓子関係道具類	118点	杉谷 禎治
	版本・洋装本・写本	924点	西山 洋
	額	2点	大岡 千鶴子
令和元年度	絵葉書集など	8点	文寿 誠二
	胸像	1点	大野 茂
	写真など	140点	山根 涉
	図書	1点	山添 敏文
	古文書・装束など	約60点	小西 弘泰
	絵図	1点	田中 良夫
	絵葉書	10点	中野 繁成
	地藏盆飾り・祠	一式・1棟	下高倉町
	地藏盆前掛など	4点	本能寺町
	陣笠・肖像・書状など	約50点	後藤 欣哉
	古文書	165点	門田 邦代
	古文書など	154点	福屋町内会
	カメラ・レンズ・アルバム	7点	塩見 昌平
令和2年度	—	—	—
令和3年度	古文書など	9点	矢野 昭子
	古文書・絵図	約480点	上田 寿一
	古文書など	約200点	佐竹 泰子

	絵図	1 舗	小野 恵美子
	額	2 面	泉 信之
	香合	1 合	北川 弘子
	版本・古文書・短冊など	6 2 点	小石原 頼子
	絵葉書・写真など	約 1 1 0 0 点	石原 ゆう子
	絵図・古文書など	約 2 2 0 点	山下 久恵
	絵図・図面・古文書など	5 3 点	荒川 朋彦
	古文書, 看板	3 点	梅原 容子
	古文書など	1 5 9 点	高原 北雄
	写真	1 点	遠山 雅夫
	写真	2 1 7 点	吉田 泰子
	絵図など	4 点	福田 叡子
	屏風	1 双	岡本 昌也

※令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、鑑定評価委員会が開催できなかったため、寄付受納物件は無い。

令和5年度事業計画（案）

1 展示

種 別	テ ー マ	内 容	期 間	目標入場者数
特別展	文化庁移転記念 歴史資料館開館40周年記念 「京歴展！」	日本史はもちろんのこと、京都の歴史に関して多大な業績を残された林屋辰三郎氏の足跡を、燈心文庫をはじめとする寄贈資料を通じてたどりながら、京都の市史編さん事業や歴史資料館の歩みについても振り返りました。	10.29～4.23 (136日間) 前期:10.29～1.22 (65日間) 後期:1.28～4.23 (71日間)	・目標入場者数 13,600人 (1日平均約100人)
特別展	文化庁移転記念事業 「八瀬の歴史をまもり、伝える」	比叡山の西の麓に位置する八瀬には古くから八瀬童子と呼ばれる人々が生活しています。彼らが伝えてきた資料は後醍醐天皇の綸旨をはじめ、歴代の為政者が税免除の特権を認めた文書、近代の皇室の大喪・大札に関する書類や装束があり、重要文化財に指定されています。こうした八瀬の歴史を物語る資料を後世に伝えるため、修理が進められてきました。本展示では八瀬の歴史とともに、修理の成果について紹介します。	4.29～6.4 (32日間)	・目標入場者数 3,200人 (1日平均約100人)
企画展	「館蔵品をひもとけば」	歴史資料館では京都に関わるさまざまな歴史資料を収集してきました。歴史調査員は日常業務としてこうした館蔵品の整理・調査を進めています。今回歴史調査員が、それぞれの視点から館蔵品のもつ魅力を紹介する展示を開催することにしました。	6.10～10月	・目標入場者数 (1日平均約90人)
特別展	文化庁移転記念事業 京都市内個人所有古文書調査事業の成果「熊谷家・下村家文書」 (仮題)	令和元年度より4箇年事業として、文化庁「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の国庫補助を受け、当館が主体となり、京都市古文書調査会に調査を委託し、実施してきました。「熊谷（純）家文書」、「下村（忠）家文書」の調査の成果を紹介します。	10月下旬	・目標入場者数 (1日平均約100人)

2 講座等

講座名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師
歴史講座	文化庁移転記念事業「八瀬の歴史をまもり、伝える」 展関連歴史講座	5月	—	松中
連続講座 「古文書を楽しく読もう！」	春期連続講座 A組（初級編）13時30分 B組（中級編）15時30分	5.24、5.31 6.14、6.21	—	野地 吉住
	秋期連続講座 A組（初級編）13時30分 B組（中級編）15時30分	10月下旬 ～ 11月上旬	—	—
ギャラリートーク	文化庁移転記念事業「八瀬の歴史をまもり、伝える」	—	歴史資料館	松中
	「館蔵品をひもとけば」	—	歴史資料館	歴史調査員
	京都市内個人所有文書調査事業の成果「熊谷家・下村家文書」	—	歴史資料館	秋元

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講座名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師
京都府立鴨沂高等学校授業	—	—	鴨沂高等学校	(井上)
京都学歴彩館との 連携	京都学ラウンジ・ミニ講座 ※京都市共催	—	歴彩館	—
アスニー京都学講座	—	—	京都アスニー	—

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行っていきます。

(1) 収蔵品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する。」ですが、所蔵する館蔵品・寄託品の内容把握が、受入れが膨大となり十分とは言えない状況にあります。

そこで、収蔵品台帳・目録の整備を重点的に対応します。

最終的には、目録を作成するなかで、明らかとなった貴重な資料は、市指定文化財の指定に繋げ、長く保存・活用される道筋を明らかにするとともに、目録の公開（HP等）を通じて、市民等の活用に資するよう目指します。更に、詳細な調査・研究を必要とする貴重な資料は、大学等と共同研究を行い、その成果を発表（HP等）・活用（出版物等）し、広く市民等の活用に還元する道筋を明らかにしていきます。目録・画像データのデジタル化により、検索を容易にし、インターネット等において収蔵品の魅力の発信に努めていきます。

令和5年度は、歴史調査員自らが対応件数は限られるものの収蔵品台帳・目録（画像データも含

む。)の整備を引き続き進めていきます。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

(2) 京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺文書調査

古文書の現地調査と報告書刊行に協力します。

【秋元、野地】

(3) 文化庁の興聖寺一切経調査

歴史資料館からも調査に参加します。

【野地、井上】

(4) 国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

令和4年度から3ヵ年の予定で実施される国文学研究資料館の研究会に参加し、山本家典籍(京都市指定文化財)など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する共同研究に参加します。

また、国文学研究資料館が、山本家典籍(京都市指定文化財)をデータベース化するため、画像データの作成を行います(諸費用は国文学研究資料館が負担。)

【松中】

(5) 大谷大学による今江家文書調査

所蔵者の了解の下、大谷大学へ今江家文書を貸し出し、京都市の指定に向けた調査を行います。文書は大学博物館収蔵庫にて管理します。

【松中】

(6) 東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、対岳文庫から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料の本格調査・デジタル撮影を行います。

【松中】

(7) 八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金により令和5年度分の修理を行います。

【松中】

5 研究紀要の刊行

『京都市歴史資料館紀要』第30号を刊行します。

6 「叢書 京都の史料」の再版

歴史資料館の古文書調査の成果をもとに、史料集の刊行を行ってまいりましたが、人気が高く完売し、要望の高い叢書を再版します。

平成27年度刊行、令和2年度再版の「内裏図集成 京都御所と公家町」及び令和元年度刊行の「京都摺物集成～江戸時代の京のにぎわい～」を予定しています。

7 Innovate MUSEUM事業(旧「地域と共働した博物館創造活動支援事業」)

(京都の複数の歴史文化施設がクラスターを形成し、多様な事業を展開)

地域の文化財の魅力発信、地域振興など、美術館・歴史博物館を中核とした関係機関との連携による文化クラスター創出に向けた取組を支援する文化庁の補助事業を活用した「京都歴史文化施設クラスター実行委員会」に参画しています。

令和5年度は、関係機関と連携し、各種事業を実施することとしております。(協議中)

【野地】

8 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、2023年に設立100周年を迎えることから、近代の祇園祭の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌などが作成されます(令和2年度から6年度の5ヵ年事業)。

このうち、山鉾町関連資料や八坂神社関連資料の調査に協力します。

これまで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため作業が遅れたため、令和4年度から本格的に調査を実施することになります。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

9 資料館外貸出

他の博物館や美術館での展覧会に、当館の館蔵及び寄託資料を貸し出し出陳する依頼があった場合、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行いません。

【尾下、井上】

10 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用を希望される場合、特別利用や掲載許可の申請手続きや画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行います。

—特別利用の申請—

- (1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。
- (2) (1) で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。
- (3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

- (4) 出版物に図版として写真を掲載する(電子書籍版も含む)。

歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、令和2年度まで使用目的にかかわらず、貸出申請のうえ無料で提供してきましたが、出版物等の商業目的については、利用者に一定の利益が見込まれることから、令和3年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき画像貸出に係る経費を負担願っています。

【尾下、井上】

11 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧を希望される場合、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行いません。

- (1) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (2) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。

(3) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【尾下、井上】

12 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査及び指定を行います。

(参考)

指定件数 1、792 件（令和 4 年 3 月 31 日現在）

内訳：市参事会文書 156 件、編入市町村引継文書 573 件、総合企画局国際化推進室文書 511 件、総合企画局総合政策室文書 286 件、元離宮二条城事務所文書 51 件、その他 215 件

【秋元】

13 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応します。

【歴史調査員】

14 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行います。

【井上】

15 博物館実習生等の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施します。

なお、令和 5 年度からは博物館実習生の受け入れを有料化とします。（一人 6,000 円予定）

・博物館実習 令和 5 年 8 月 22 日（火）～26 日（土）

【松中】

16 広報活動の強化

令和 4 年度に引き続き、Facebook 及び Twitter を活用した集客増加策等を進めます。

17 収蔵庫等環境改善事業

収蔵庫の環境を適切に保つため、令和 4 年度に引き続き IPM メンテナンス等を実施します。

18 空調設備更新事業及び照明設備の LED 化事業

歴史資料館は、令和 4 年度に開館 40 周年を迎えます。館の設備等も 40 年を迎え、修理部品が無くなってきていることから、故障し修理が不可能な状況になれば、館運営はもちろんのこと収蔵品への影響が懸念されます。

そこで、令和 5 年度は、一般空調設備の改修工事及び照明設備の LED 化事業を予定しております。いずれの事業においても展示室等の一般来場エリアへの影響があることから、工事にあたっては臨時休館を行う可能性があります。

令和 6 年度以降も順次改修工事を進めることにより、館運営の機能維持に努めたいと考えています。

実施期間：令和 5 年度下半期

京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

[歳入]

(単位：千円)

		5年度(案)		4年度		3年度		2年度		元年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
消費枠	刊行書籍販売	1,702	-	702	-	1,702	892	1,702	885	502	298
	資料コピー料金	300	-	300	-	300	180	300	186	300	274
	古文書講座受講料	1,080	-	768	-	768	324	384	184	384	368
	補助金等	-	-	1,000	-	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
					京都市の古文書調査事業						
	画像利用料	640	-	480	-	316	572	-	-	-	-
	展示解説書	420	-	430	-	-	-	-	-	-	-
	博物館実習等	100	-								
	寄附金	50	-	50	-	0	157	-	-	-	-
投資枠	市債・行政改革推進債	24,000	-	17,000	-	-	-	-	-	-	-
	空調設備更新事業／照明設備のLED化			特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-	-	-	-	-	-
計		28,292	-	20,730	-	4,086	3,125	3,386	2,255	2,186	1,940

[歳出]

		5年度(案)		4年度		3年度		2年度		元年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
消費枠	歴史資料館管理運営	19,182	-	14,029	-	13,987	13,376	13,987	13,192	13,844	12,297
	その他	-	-	2,050	-	2,050	2,034	2,000	1,980	2,000	1,978
				京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業	京都市の古文書調査事業
								2,800	2,653	2,100	1,981
								京都市の文化財展	ICOM京都大会連携 京都市の文化財展		
								1,000	500	1,000	500
								資料叢書編さん	資料叢書編さん	資料叢書編さん	-
										4,000	3,762
										歴史資料館収蔵資料のデジタル化等	
投資枠	歴史資料館整備	27,990	-	17,970	-	-	-	-	-	-	-
	空調設備更新事業／照明設備のLED化			特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-	-	-	-	-	-
計		48,172	-	34,049	-	17,037	15,910	21,987	22,087	17,944	16,256

※文化市民総務費を除く

令和3年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

1 日時 令和4年3月3日（木）午後1時30分～午後3時10分

2 会場 職員会館かもがわ3階

3 出席者

評議委員：荒木かおり、宇佐美英機、片山真理子、坂本博司、竹村佳子、
玉城玲子、中尾亮弘

京都市：文化市民局文化芸術推進室山口担当部長（事務局長）

文化財保護課牧山課長、文化財保護課安井係長

歴史資料館 井上館長、中村次長、松中、秋元、吉住、野地、井上

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議事運営

（1）開会

【京都市】

本日はありがとうございます。時間にはなっておりませんが、みなさんお揃いになりましたので、始めさせていただきます。皆さん、発言されます時は、マスクをつけたままで、結構でございます。その代わりに、マイクを使わせていただいて、聞きやすくすると。それで、こちらの方で、録音もさせていただきますので、そのような形で、お願いいたします。

本日は、年度末のお忙しいところをお集まりいただき、まことにありがとうございます。令和3年度京都市歴史資料館評議委員会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、京都市市民参加推進条例第7条に基づき、公開とさせていただきます。現在のところ、傍聴の方はおられませんけれども、来られましたら、随時、傍聴いただくということにさせていただきますと思います。

また会議の資料および、議事録については、後日、京都市の公式のホームページ「京都市情報館」で公開させていただきますので、宜しく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、館長の井上からご挨拶申し上げます。

（2）開会あいさつ

【京都市】

評議員の皆さま、こんにちは。京都市歴史資料館長の井上と申します。

日頃は、本当に何かとお世話になり、また年度末の最もお忙しいところ、皆様方、やれ委員会やと、混んでおられるかと思っておりますけど、ご出席いただきまして厚く御礼申し上げます。で、この一年の京都市歴史資料館の事業内容については、後ほど、お手元の資料等により詳細にご説明させていただきますと思っております。

毎年みたいなご挨拶をしますけれども、京都市歴史資料館も、ここ数年、かなりの曲がり角となっております、これをうまく曲がりきれぬかどうかと、そして、うまく着地できるかどうかと、いうことを日々、頭を悩ませております。

京都市は、財政の極度のひっ迫の状態であること、メディア等を通じて、知れ渡っております。その波は、もちろん京都市歴史資料館にも、押し寄せてまいることになると思っております。ですけれども、そういう時期であるからこそ、資料館の館員はもちろんですけれども、皆様方のお力、お知恵をお借りしまして、知恵を発揮する時期にきているのではないかと、思います。

金のないところは知恵で転がせと、そういう形で乗り切っていく、しばらくしたら、日影が来るかとも考えられますので、一層、皆様方の、これまで以上にご支持、お力添えをいただくことになろうかと思っておりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

(3) 出席委員・出席者の紹介、配付資料の説明

(4) 令和3年度事業報告説明、質疑

(資料4に基づき説明)

【評議委員】

Facebook と Twitter ですよね。京都市歴史資料館さんも10月からされていたのを見ていたんですけれども、運用の方針とかはあったのでしょうか？ちょっとだけ聞いてみたことがあるのですが、割といろいろと制約もあつたりするようで、何を書いたらいいとかか。

【京都市】

私どもも経験不足ですので、何をしたらいいのかというのが、正直なところなんですけども、やはり展示内容をこまめにご紹介しようというのと、あと、今まで刊行してきた叢書を紹介してですね、こんなものを刊行しているんだよというのを、紹介しようとしております。今後はもっと細かく、できたらなあと思っておりますけれども、今は、そんなところから始めている次第です。

【評議員】

関連するのですが、Facebook とか Twitter とかいうものを、館の中で、どなたがやっておられるのか、伺えればと思ったのと、その、機器は館の機器としてあるものを使ってやっておられるのか、というのをお聞きしたい。

もう一つ、画像の提供で、お金を商業利用の場合、とられるとありましたけれども、画像一件につきいくらか設定されているのかということと、それと「入」についてはどのように

処理されているのか？雑に入るのか、それとも違う、特別なところに入るのか？

【京都市】

誰がやっているかということですが、一人の職員に担当していただいて、情報が集まるように、詳しい方に情報をいただいて、私どもが決裁してあげております。その機器は、京都市が、私どもが使いたいということですと、配布されたものがございまして、公的機器を用いている。公的な機器です。

画像データでございますが、一件4,000円ということで、やっております。最近はずね、いろいろ再放送とかされることもございますので、見直しをせないかなあと、今年度から始めたことでもありますので、問題点も見えてまいりまして、いろいろと改めないといけないところも出てまいりましたので、考えながら、今、進行している次第です。

どこにいれるかですが、雑入でございます。

【評議員】

同じような質問でなんですけれども、画像についての、有料ということはHPにあげられているのでしょうか？というのは、かつて学芸員などをしておりました経験上、予算の関係上、すぐに情報が得られるといいと思っておりますので、そういったところは、HPに掲示していただければと、私、見たところ、知らなかったもので。

Twitterも始められたということですが、Facebookは去年教えていただいたので、見せていただいたのですが、Twitterとの区分けというか、同じようにあげられているのか、分けて考えられているのか？

Facebookで見たときに、大きな魚をなんか、館の前でなにかさされていて、声が大きくなって、何をされているのかわからなかったもので、どういった状況だったのかを教えていただければと。

【京都市】

HPでは、わかるようにあげているつもりなのですが、つい最近なんですけれども、館内でもわかりにくいよねということで、画面を変えようという意見がでておりまして、見直しをさせていただいて、わかるようにしたいと思っております。

FacebookとTwitterですけど、今のところ、これはこう、こうはこうと明確に設けているわけではありません。

魚のことなんですけど、これは、市電展をやっております時に、オオサンショウウオを、市の指定文化財になっておりますから、これを水を使いますので、館の前で、展示というか、子どもさんに触ってもらおうとか、見ていただくということでやりました。

映像として見にくかったということなので、ちょっと反省したいと思います。不慣れなもので、申し訳ございません。

【評議員】

できましたら、前もちょっと申し上げたんですけど、展示のガイドというものを、動画であげてもらおうと、より魅力を感じるんじゃないかと思えますし、音声のガイドなんていうのは、導入はすごく大変ですけども、声だけでもガイドの動画をあげてもらえると、見に行きたいなという気持ちができるのかなと思えます。工夫はいると思えますけど、ご検討いただければと思います。

【京都市】

ありがとうございます。参考にさせていただいて、検討したいと思えます。

【評議員】

少し関連するんですけど、画像の利用については、どのようにその媒体を、お貸しなされていますか？例えば、CDに焼くとか、送ってしまうとか、方法ですね。お聞きできればと思えました。

【京都市】

画像の利用につきましては、撮影したいという時には、撮影の許可を出すということで、画像のデータが欲しいという時には、メールでのやりとりはしておりませんので、CD-Rですとか、DVDをお送りいただいて、そちらの方にデジタル画像を入れて、お渡ししております。他で流用されることは困りますので、お渡しする時に、使った後には、必ず消去してくださいという形で、提供させていただいております。

【評議員】

ありがとうございます。私の経験上、そういった時にですね、CDとしてお借りしたものを、出版物に使った後、パソコンの中の画像を消して、さらにそのCDを返却するところまでなさっている館があったので、そのあたりどうなのかなと思って、ちょっと気になって、質問しました。

【評議員】

画像データにもちょっと興味があって、ちょっと歴彩館のホームページをミュージアムを見ているんですけど、そこ、そのままダウンロードできるんですよね。範囲内ですけども、使ってくださいということで、非常に便利なんですよ。あそこまでいかないと、使いづらいなあというところがあるんですけども。そこまでのシステムを構築するというのは、どうなんでしょうか。

【京都市】

現在のところは。

【評議員】

私も、公開されている HP を見て、たしかに、わかりにくい説明だったんで。

私らが古文書なんかを撮影したいというようなものの、研究のためだけにやりますって時に、あそこの説明、もう少し、どこが無料ですよっていうのを先に書いてもらわんと。冒頭のところで、商業出版に関するものは有料であるけれども、学術研究の場合においては、無料であるというような書いてもらわんと、全部読まないで、私らもお金取られるの？ってことになる。わかりにくいっていう、感想です。

それとは別途に、画像のことで HP 見ていくと、目録の画像というのを、去年もそうですけど、これはこれからの先の計画で、解説はちゃんと全部載ってますよね、それはそれで、ありがたいんですけど、肝心の史料の目録がね、やっぱり何にもないってというのは、結局、あの解題だけ読んで、関心があるところ見に来なさいってという話で、遠隔におる人間にとっては、非常にこう利用しにくい。ある意味、解説だけで。かつての京都市史のところとかの、ここの伝来の家の文書がこうで、ここの行政区の文書はこんなものがありますっていう説明もありがたいんですけど、いったいどんな文書があるのんかかっていうこと、肝心の目録が PDF 化されていないので、やっぱり、それを早くしてほしいなあという、思います。

でえ、それはたとえば、国文研と画像のリンク張ってますよね。あれも国文やる人には楽しいやつなんだけど、資料館のもっているような、歴史とかの画像は何も、こう、あがってこないんで、なおかつ、リンクを張ってるところも、国文研いけば、そりゃ国文研にあるんですけど、もう少しホームページにリンク張ってもらった方がいいんじゃないかと思うんです。たとえば、山鉾町の文書なんかを、展示するというか見なおすとかかしていますけれども、あれだって、歴彩館の京都府立大のところは山伏山町をやりましたよね。ああいうところもふくめて、ちょっと少し、歴史資料館と関わりのあるようなところとかが、お互いにリンク貼ってもらった方が、京都研究やる人にとっては、京都のこと調べるのに、すうっと一か所からいけるので、ここのホームページからはリンク張ってあるところが非常に少ないので、また別のところの HP にいかなあかんというような構造になっているから、いうふうに、思うんです。

ついでに、私が勤めとった滋賀大の歴史史料館にリンク貼ってあるかというのと、貼らんのですけど、それはまあ、いろんな事情があって貼ってはいないんですけど。

こういう形で、PDF 公開していくという形を進めていくという、ここをちょっと考えてもらいたい。実際は、お金がないし、滋賀大の方でも、お金がないんで、なかなかできない。同時に、全部がのせられるかっていうと、所蔵者の関係とかいろいろありますので、何を乗せるか載せないか、結構、所蔵・現蔵者の方と、交渉もしないといけないです。目録それ自体も、必ずしも全部 PDF であげることができるかっていうと、それはそれでまた、

いろんな手続きがややこしく、現蔵者の方との交渉があると思うんですけど、長期的には、PDF 公開で。毎回来て、部屋行って目録くるというのは、もう、さすがに年取ってしんどいで。家において、目録見れるようにしてもらおうとありがたい、という。

それから、四年度以降の計画にもなるんでしょうけど、さきほど確かに、ホームページとか見て行って、今度、売れすじがよかったから、叢書を復刻しましたって記事も載ってますけど、もうひとつ、叢書だけの話なのか、むしろ、むしろちゅったらおかしいけど、紀要の方でね、すでに完売というふうになってしまっている、二・三冊ぐらいあるじゃないですか、紀要が。その紀要なんかの、それを第2版じゃないけど、復刻してもらおう方がありがたいかなっていうのと、雑誌そのものは、私は紙の媒体も好きですけど、だんだんと、予算の制限かかってくるのであれば、電子媒体化で電子雑誌にするという方向も考えられたらどうかな、というふうにも思います。個人的には、紙の方が好きですよ、もちろん、紙の方が好きなんですけど。だんだんと、いろんな学会誌とか含めてみると、もはや紙媒体を出さずに、大学の紀要とかも電子媒体で、紙を廃止していったる紀要が多くなってきたので。長い流れとしては、そういう方向性もありうるのかなって。

昨日、ここのホームページを眺めていて、隅から隅まで眺めながら考えてきたところです。すいません、とりとめのないことばかりで。

【京都市】

ありがとうございます。順番がいろいろとなってしまうかもしれませんが。直近で出した紀要を電子化するのかどうかってところは、議論があったところでして、今後はやはり、電子化の方向なのかなあっというように思います。

紀要もたしかに売れ筋のものは在庫がない状態でしたので、これも、叢書の立入家文書も再刊したいなと、近々したいなと思いますけど、紀要についても意識したいなと思います。ありがとうございます。

リンクについては、どういった制約があるのか、すぐに思いつきませんが、ご意見受けて、考えたいと思います。

あと目録の話ですけど、やはり、私いま3年目になってございますけれど、やはり目録の整備ができていないなっていうのが、ここ勤めてやってございまして、ほんとに、徐々に取り組んでいるところで、来年度からは本格的に、年数も限って、やり遂げたいということで、いま、考えて、話をしているところです。それができあがると、電子媒体で、どんなものがあるのか見ていただけるような状態になるんじゃないかということで、まあ、来年すぐにできるというわけにはまいりませんが、来年度から、本格的に、腰を据えて、取り組んでいきたいと思っています。ご指摘いただきまして、尻を叩いていただきまして、私どももやってまいりたいと思っています。ありがとうございます。

(5) 令和4年度事業計画説明、質疑

(資料5に基づき説明)

【評議員】

40年もたちますと、収蔵庫もいっぱいになっておられると思うんですが、建物自体もそれほど大きくないですし、収蔵庫は拝見したことがあるのですが、京都市の規模ですと、おそらく建物に収まりきらないくらい、たくさんの収蔵依頼とかが、ものすごくたくさんあると思うんですが、たぶん、飽和状態じゃないかという想像するんですけども、そのへんの状況がどうかっていうのを教えていただきたいのと、別の場所に保管されているところがあるのかっていうのと、あるいは、40年を機に、新しい、環境にずいぶん見直しをされているってことなんですけど、スペース自体をどう考えるとかですね、そのことは、どのように進めておられるのでしょうか。

【京都市】

非常に痛いところですよ。本当に、もう満杯に近づいているというか、状況でして、課題としては、やはり、40年たちますので、できれば他館と合築して、そこに移りたいと、目指したいという思いがございますが、なにせ京都市の財政事情ですので、それもなかなか早急には進まないという状況でございます。

そんなところから、小学校跡地に保管しているものもありますし、市役所の別の施設で保管しているものもございます。令和2年度に大量に移したこともございます。そのような形で凌ぎながら、なんとかやっているというのが、正直なところですよ。大きな課題だと認識しております。即の解決策は、今のところ見出してないというところがございます。

【京都市】

施設の問題は非常に大変なことだと思っております。今は市の財政状況がよろしくないということで、現状としては、既存の施設を探して、そこになんとかもっていくというのが、精一杯の現状だと思っております。

歴史資料館もそうですし、考古資料館もかねてから、京都市の歴史を見られる場所を、ちゃんと作っていくべきだというような声もいただいていますし、そういうことも考えていきたい。かたや、市立芸大の移転であるとか、文化機能の整備も進んでいるところですけど、まだ博物館機能の部分について、まだ整備は進んでいないと思っております。やっていけないんじゃないんですが、ただ今後、将来のことを考えたときに、箱モノ行政みたいなことでいいのか、どのようなカタチがいいのか、大きければいいというわけではないでしょうし、人の問題もありますから、その辺り、よく議論を重ねていかないと、仮に財政が潤沢であっても、理解はなかなか得られないんじゃないかなあと思っておりますので、議論をしていきたいなあと思っております。ただ、京都市ならではの、京都市として、全国をリードするよ

うな博物館像みたいなのが見いだせるといいのかなあと、何ができるというわけではないんですが、そういうことは検討していかなければいけないなど、課題だと考えております。

【評議員】

2点お話したいのですが、一つはデジタルスタンプラリーですね、前の時にお話し聞いていまして、自分でも実際にスマートフォン使ってさせていただいて、スタンプを、全部集めてませんが、近場でやらせていただいて、なかなかいい取り組みだなと思っております。ですので、もうちょっと、いろいろと範囲を広げてか、展示と関係するようなことも合わせて、発展させて、いろんな所と共同していかれたら、いいんじゃないかと思っております。

もう一つ、講座の方なんですけど、今、会場にはもう、大体半分の方ぐらいしか入ってもらえないという状況ですし、Zoomなんかを使って、両方、会場とZoomとで、たくさんの方に聞いていただくというような取り組みも、あんまりお金のいらぬことで出来ると思いますので、そういったこともご検討願えたらと思っております。

【京都市】

スタンプラリー、ご参加ありがとうございます。今後も検討させていただきたいなあと考えています。

まだ、わが館ではZoom経験がございませんけど、他の部署ではそういうことはじめておりますので、聞いて、考えていけたらなあと考えています、ありがとうございます。

【評議員】

もともと3年ほど前から、京都府から自転車のサイクルツアーのガイドの養成がありまして、そういう感じで、京都府からガイドツアーの指導をしているんですけども、京都府から見ていた時期がありまして、京都府の南の方、京都市からも観光客がくるっていうのもあって、いろんな歴史資料館とか京都府下の館とかいろいろ回って、こういう資料あるんだなあと見て回っていたんですけども、自分が思っているのは、山城国というテーマでやった方が、京都市の歴史ってすごいわかるんじゃないかなあと考えていて、どうやってコース回ったらいいかずっと考えているんですけど、南の地域、すごい空白地域があるんですよね、ほとんど鳥羽伏見の戦いの説明するものが何もなくて、南に行くと八幡市とか枚方市になっていくんですけど、見に行くものもないし、地方の人から見ると、わりと、あの戦いってどこにいったら見れるんですかっていうのが、わりとあるようなので、もうちょっと京都市とか区で歴史資料館さんと連携していただくと、非常に・・・

笠置寺のガイドをしていまして、資料集めとかもしてるんですけども、ガイドとかも若い人いなくて、他の地域もそうなんですけど、そういう有料ガイドっていうのは、いた方が、観光資源にもなるんですけど、京都市でも資料貸し出しに有料化になってくるんで、ボランティアガイドさんもいっぱいおられるんですけど、限界があるんで、まいまい京都みたいな

有料化にならざるをえないのかなあと思っているんですけど、そういう有料ガイドってどういう立ち位置にあるべきかっていうのが、今ちょうど悩みどころです。

【京都市】

京都市の観光の部局に聞いていただければと、そんな感じもしておりますが、ありがとうございます。

【評議員】

私は、皆さん研究者の先生方とは違った立場でございますので、そういったところから行きますと、祇園祭の山鉾の関連の事業・仕事にも携わっております。そういった目から見ますと、非常に山鉾の、安井さんもよくご存じだと思うんですけど、山鉾の懸装品であったりとか装飾品というもののすばらしさっていうのは、修理をする中で、すごく実感しております。

その中で、なかなか観光客に対して、今回すばらしい最高の入場者数をとらえたってことも、ありますが、そういったことを望んでられるのであれば、やはり祇園祭という絶対に人を呼び込める、深い伝統があるわけですので、そここのところとの、山鉾連合会さんとの、もう少し深いタイアップと展示と、この展示がどういった見せ方をするのか、ただ単に並べるのではなく、こうやって作っているのかとか、こういう技法を使っているのか、というような奥深い、調査に基づいた展示をしていただくと、よりいっそう、ディープな祇園祭を楽しめるんじゃないかというような気がいたします。

来年は、祇園祭の頃はどうなるかわかりませんが、お祭りの頃と合わせるかたちで、人ごみの非常に多い、お祭りの喧騒を避けて、こちらの歴史資料館の方でこういった展示がありますよ、何々町の何を展示しますよといったことがあると、またそれなりの方が来ていただけるんじゃないかなという気がいたしますし、そういった見せ方が、文化財の保存には必要な視点じゃないかな、と思います。

同じようなことなんですけど、建造物の彩色の修理をいたしまして、近年ですと、西本願寺唐門の修理を終えたところでございます。その時も、唐門に付いております彫刻類を全部、修理のために取り外して、下で彩色のやり直しとか彫刻のやり直しをしております。そういった文化財修理と連携しながら、その下りている時っていうのは、100年に一度とか、50年に一度のすごいタイミングなんですけど、その時に、展示をするっていうのを考えてみたらどうかなあって、いつもこっそり提案はするんですけど、工期がねえといったところで、実現はしておりません。

少し、文化財保護課さんの修理の期間を多めにとって、そこの中での収益を充てるってことも含めて、現状の保護を考えるってことと、いろいろ連携して行って、皆さんの理解も深まるということもありますし、修理所も少しは何かあるかもしれませんということも考えて、大きな視点から、文化財の修理と、館との、せつかく、京都市同士の施設ですので、そ

のあたりの何か連携みたいなこと、もう少し、高いところからのお話しあいになるかという気はしますけども。

【京都市】

直接の回答になるかわかりませんが、令和元年度に「京都市指定の文化財」の紹介もさせていただいたり、令和2年度にも「京都市指定の文化財」展というものをしております、その中では、文化財の修理の紹介もさせていただいたところで、今後も機会があれば、そういう展示も考えられればなあと思っている次第です。

【京都市】

おそらく2年度の歴史資料館の展示の中で、市の指定文化財にもさせていただき、絵画の修理の展示をさせていただきましたし、映像で仏像の修理の様子を流させていただいておりました。確か、私の記憶が正しければ、同じタイミングで京都の国立博物館で、文化財の修理をテーマにした展覧会をしていたはずなんです。同じ映像で映っていた仏像、すいません名前はぜんぜん分かんないんですけど、も展示されていた。偶然かもしれないんで、そこはわからないんですけども、そういうなことはやりました。

先生おっしゃるように、やはり修理というのは、何十年に一度、何百年に一度というタイミングがでもあるので、今一度、そういうタイミングが合えば、ご覧いただく、その時しか見れないものってたくさんあると思いますし、いわゆる互助事業であるとか、なにかしの逆にご覧いただいた人からご寄付いただいて、それを修理に充てるとかですね、そういうようなきっかけをつくれるような、やり方はあるんじゃないかと思います。言い出すと、夢はどんどんと広がっていくんですけども、そういうこともしたいと思います。京都市自体も、寄付を集めようと、ふるさと納税というものも京都市自体も積極的に始めましたし、企業側のふるさと納税というものもしましたし、そういうことを活用するかたちで、うまいこと展覧会に結び付けるようなこと、修理事業に結び付けていくことができるようになればいいなと思っております。ちょっとあとは夢の話ではありますけれども、そういうこと、考えていければと思います。

【京都市】

祇園祭とのタイアップについてですけど、今回、祇園祭との関係で、協力しております。そういう調査から、今後も考えられるか、ヒントになるかなあと思います。令和4年度の事業は、だいたいやりたいことは、固まってまいりましたが、次年度以降そういったご指摘もヒントになるかなあと思っております。ありがとうございます。

(6) 歴史資料館運営予算について、質疑

(資料6に基づき説明)

【評議員】

40年ですか。そうなんですね。林屋先生の名前も出てね、懐かしいですね。市史編さん所から出発して、もうリタイヤしましたけど、市史編さんの延長での仕事って、なかなかできひんかったですね。でもまあ、最後に、余計なことですけど、史料持ってきた人が、まあ史料調査やな、ここでいったら、めったにないパターンでしょうけど、終活、エンディングノートですか、そのために、いろんなとこに、自分の家に古文書があるんで、持ち込んできはって。まあ、面白かったです。見たことなかったんでね。

そういう機会にもなるんで、いろいろ事業として成立しているのは、それも大事だと思うんですけど、ひとつひとつの関係、そこにノルマがあるという、そういう仕事としてなんか、やっていけたらよかったなあと、今頃になって、もうやめる直前にそういうのに出くわしてね、そういうかたちで、古文書をもって、人を支えていく、そういうのをずっと続けていただったら、ありがたいなあと、以上です。

【京都市】

ありがとうございます。私も3年間だけになりますけれども、この施設にとって、大事なのは市史編さんでありました。市史編さんの時には、それで手一杯だったんだろうなあと、推察させていただいております。

その機能が平成26年に終わりました、現在の、古文書の調査・研究というのがメインになったわけなんですけど、まあ、その、抱えていた市史編纂というもののために、ちょっと目録作成というところまでは、なかなか手が回らなかったんだなあと、感じているところで、今後、その反省点に立って、やってまいりたいなあと思っているところでして、今の調査・研究になりますと、人との関係を大切にしたい仕事というのを、心がけていけたらなあと思っております、今後とも、ご指導いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

【評議員】

Twitterについてなんですけど、いま学芸員さんが結構Twitterで発信されています。今後、博物館法が変わるっていうので、すごい話題になってて、稼げる博物館になれよっていうのを文科省に言われてますけど、じゃあ稼げる博物館ってどんな姿なのかとか、資料類をどう扱うべきとか、予算ないし、売るもんってないよなって話を見てて、さっき言ったような、京都市の博物館の新しく作る構想って儲かるもんなんかとか、そういう、じゃあ儲かる部分ってどういうところやとか、いろいろ思うところがあったんですけど、どうでしょうか。

【京都市】

文化で儲ける稼ぐという気は、あんまり、何というか、下品なことばだなっと思ってるんですけど、博物館自体で稼いでいこうっていうのは、今の財政的なこと、経済的なことを考えると、ちょっと違うと思うんですけど、黒字を出そうとか、そういうことは恐らく、できることではないですし、博物館のそもそもの役割を考えた時に、社会教育施設であったり、評議員がおっしゃったように、市民とのつながりであったりとか、そういう機能を考えた時に、必ずしももうけることではない。ただ、いくばくかの収入というのも得るような、機能も必要なんだと思うんです。必ずしも、博物館の議論を私もぜんぶ追えているわけではないんですけど、必ずしも、稼がないといけない、稼ぐ方向にいつちやってしまうとまた、博物館って何なのって話になるんで、そういうことにはならないようにしなきゃいけないと思うんですね。あくまで、ちゃんとした調査・研究をして、展示をしていくということ、ここでいうと出身地に帰って、原則というのあったうえで、あと、どういうことができいくか、いわゆる活用というもの、そういうことをよく考えていくんだらうと思っております。

調査会の方の話もありますが、必ずしも、黒字を出せと言っているわけでは私はないと思っております。博物館施設で黒字を出せと求められているわけではないんですけど、いずれにせよ、なにがしらのことはしないといけない。いずれにせよ、基本的なところはきちんと押さえてやっていくと、いうことを考えると、稼がないと言うと、言い方はどうかと思えますけど、必ずしも稼ぐことが使命ではないと思っています。

【評議員】

感想というか、展示室ですね、入館料無料の館だと思うので、たぶん入館料設ければ、もっとこう、恐らく、それに値するような素晴らしい展示を年に4回以上ですか、やっておられると思います。入館者数と、そのかかった経費、あんなにノルマを課せられてやっておられるのかと思うと、びっくりしたようなことなんですけど、でも本当に、入館料、収入としてないけれども、こんなに素晴らしい内容の、入館料を取ってやっているような館に、勝るとも劣らないような展示を毎回やっておられる様に思っておりましたし、無料で配っておられるものも、無料だとは思えない内容のものを毎回刷っておられて、やっておられると思っております。

ただ、今まで通り、無料でやっておられるということに、本来の資料館としての、地域の資料館としての、役割を果たせている部分があるのではないかと思いますし、それは今まで通りやっていただきたいんですけども、その、さらに大きな注目を集めて、たくさんの方が押し寄せるようなものを目指したりするのではなくって、今のような、充実した内容で、市民の人たちがほんとに大事にしてきたものを、調査して、展示されてっていうのを、京歴の良さっていうのか、やっていただきたいと思えますし、市電とか、すごくたくさんひとが来はって、でも「村のさむらい」の展示で100人もノルマが課せられているのは、すご

いびっくりですけど、それに70何人も来てはるっていうのは、京都市の文化力ってすごいなって思ったんですけど、そういうことにも評価が与えられるような、資料館であっていただきたいなって思ったりしております。あんまりちゃんとまとまってませんけど。

【京都市】

ありがとうございます。目標入場者数については、実は昨年度から、私の方が申し上げて入れてもらってます。やはり何か目標あったほうがいいだろうと。ノルマでは決してないんですね。ノルマではなくて、何か目標がないと、やはり、その、お客さんあつての博物館・資料館であったりするわけですから、その方がいいだろうということで、やってもらってます。だから、これが達しなかったからといって、ペナルティとか決してないし、思ってます。

入場料の話は、当然、今の市の財政状況を考えても、いろいろ議論が少しあったんですけど、やはりなかなか難しだろうと、施設の物理的な面も含めながら、難しだろうということで、今は無料となっています。ただ、いいものを先生おっしゃるように、つくってます。その図録というか、リーフレットを。そういうものをつくることによって、有料化することによって、今より質の良いものをできますし、どういうことをやれば、来館者の人に見ていただけるかということ、うちの質もより上がると思えますし、そういう効果もあるんじゃないかなって思っております。そのへんはそういうこと、やっていければなあと思っております。

いずれにせよ、入場料金については、恐らく歴史資料館の Facebook で見たんですけど、資料館が入場無料でよかったと、京都市民でよかったなあみたいなコメントがあったんですね。だから、逆に言うと、無料で感想をいただけるのが、ありがたいなと、実は、強烈に思っております、その部分、先ほど申し上げたように、物理的なものはなかなか難しいんですけど、恐らく、当面は入場無料で、いろいろ提供させていただくところで一部有料とさせていただくということで、バランスをとっていききたいなあと思っております。すいません、とりあえずは以上です。

【京都市】

それでは、閉会に向けて、おさらいになりますけれども、今年度はですね、幅広い年齢層に資料館を知っていただき、活用いただけるよう、指定に関する展示会を開催させていただきましたほか、昨年度の大河ドラマにも登場しました、幕末に活躍された岩倉具視に焦点を当てた展示会を開催するなど、市民の皆様の関心の高い展示テーマを設定することにより新型コロナウイルスにより、65日間の閉館もございましたものの、このままいけば、入館者数は過去最大となる見込みです。

また京都の歴史が散逸することを防ぐために、今後も調査を、大学等の関係機関と連携して進めてまいりました。令和4年度は、歴史資料館開館40周年記念を迎えることから、記念事業に対する大幅な経費計上は叶いませんでしたが、工夫を凝らした展示や講座を開催することにより、より多くの市民の皆様に、より身近に利用いただき、京都の歴史・文化を

引き継いでいくことができるよう、取り組みを進めてまいりたいと考えております。限られた予算の中ではございますが、工夫して、最小の経費で最大の効果をもたらせるよう努力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、評議委員の皆様の方の委員の任期についてでございます。皆様方の任期につきましては、令和3年4月1日から令和5年3月31日までの2年間となっております。令和4年度も引き続きお世話になりたいと考えておりますので、2年目も、引き続き、どうかよろしく願いいたします。

最後となりましたけれども、山口部長の方から、ご挨拶、御礼を申し上げたいと思います。

【京都市】

すいません、お忙しい中、時間を超過しまして、たいへん申し訳ございません。いろいろとご意見頂戴いたし、非常にありがとうございます。

今までご報告させていただきましたように、今年度、非常に、入館者を含めてですね、非常に充実した事業ができたのではないかと考えています。これは歴史資料館のスタッフ一同、文化財保護課のスタッフと、非常にがんばっていただいたこともあってですね、入館者も増えましたし、特に、いろいろなところ、連携をしてきた、できたのが大きな収穫だったのではなかろうかと思っています。

来年度は、開館40周年ということでございまして、いろいろな企画をさせていただきたいと、思いますし、世の中は、美術館NFTとか、データバンク、デジタルとかだいぶ進んできたという状況ではありますけど、その中で、われわれとしては、着実にということで、いろいろなものをFacebook・Twitterとかもですが、デジタル化を少しずつですが、進めたいと思いますし、基盤整備も併せてしていきたいと思っています。

引き続き、いろいろな発信であるとか、連携もしっかりしていくということ、努力してまいりたいと思っています。

そういう意味でですね、引き続き、歴史資料館をですね、温かく見守っていただきたいと、思いますし、ご意見もいろんな形で遂次、いただければと思います。

今日は、お忙しい中、本当に長時間ありがとうございます。あらためて御礼申しあげます、ありがとうございました。

【京都市】

それでは、閉会とさせていただきます。誠にありがとうございました。

以上